

大学研究室訪問

公益財団法人 ひろしま産業振興機構

東広島市産学官連携推進協議会

目的 : 当財団では、大学等の研究内容を新産業に結びつけるため、企業の皆様と大学研究室を訪問し、研究内容の説明を受けるとともに事業化に向けた意見交換を行う「シーズ発掘のための大学研究室訪問」を実施しています。
今回は、次の研究室を訪問しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 : 平成22年9月30日(木) 14:00~16:00

開催場所 : 広島国際大学 心理科学部 感性デザイン学科
(〒739-2695 東広島市黒瀬学園台555-36)

訪問研究室 : 関口 彰 准教授

専門分野 : グラフィックデザイン・感性デザイン・プロダクトデザイン

【研究概要】

感性工学の手法を用いて、製品の特性情報をデザインの要件に落とし込むための手法の研究を行っている。具体的には近年脚光を浴びているラフ集合（識別不能性による不確実性を扱う集合概念）などの多変量解析によりデザインの要件としてのイメージ（「やさしい」や「シンプルな」など）態度（買いたいや好きなど）と形態要素との関係を求める手法を、主にデザインに応用するための情報に翻訳するための技術に関して研究を行っている。

【特徴・既存技術との優位性】

人の感性という曖昧さを捉える技術としての先端研究でありながら、それを応用すること、使える技術として確立することを目的とした研究であり、地域産業における製品の感性品質の向上・サービス品質の向上に寄与できるものと捉えている。

【事業化の用途展開】

感性工学の手法による調査分析結果からの商品コンセプトの構築、具体的な商品化に向けてのコンサルティングなどを計画中であり一部実施されたものもある。

応用分野として、製品のデザイン、使いやすさ、空間の雰囲気づくり、Web画像、サイン、製品パッケージのイメージ設計、顧客サービスの品質向上など幅広い分野が想定され、今後も応用・実践を通して手法としての確立を図っていきたいと考える。



デザイン例